

日本地震工学会
原子力安全のための耐津波工学の体系化に関する調査委員会(耐津波工学委員
会)

(5. リスク論に基づく津波防御の体系 骨子)

5.1 序

リスク概念の重要性(不確実性、想定外、工学的意思決定、説明性)

5.2 プラントの深層防護

IAEAの深層防護の考え方、SA、設計と評価と防災の役割、
内的事象との違い(共通原因損傷、マルチユニット、マルチハザード)

5.3 安全目標・性能目標

トータルプロセスの概念、トータルシステムの概念、残余のリスク

5.4 耐津波安全確保の考え方(ハザード、フラジリティーの体系)

耐津波重要度分類、性能目標とリンクした設計点、耐震安全との違い、
防水・耐水・避水の概念に基づく耐津波安全確保

5.5 津波ハザード

津波高さ等の指標によるハザード表現、ハザードと設計点(設計外力)、
超過確率、津波制御施設の効果

5.6 津波フラジリティー

プラント・要素(部位)レベルのフラジリティーの関係、
トータルシステムとしてのフラジリティー(ストレステスト等のマージン法)
津波フラジリティーと設計点(設計耐力)、HCLPF

~~5.5~~ 5.7 リスク情報を活用した設計、評価、規制

~~5.6~~ 5.8 今後の課題